

第4回下野市障がい者福祉計画策定委員会 会議録

審議会等名 第4回下野市障がい者福祉計画策定委員会
日 時 令和3年3月5日（金）午後1時30分～
会 場 下野市役所 2階 203会議室
出席者 青山泰子委員、鱒淵泰子委員、生澤政江委員、臼井雅子委員、上野純子委員、
水本百合子委員、梁島和由委員、山家由希子委員、粥見美夏委員、前野澄子
委員、朝川美也子委員、片根明子委員、古口利香委員、白石利昭委員、大嶋
奈央子委員
欠席者 武田佳子委員、安田信子委員、小島好子委員、大久保愛委員、岡香代委員、
本田陽子委員
事務局 手塚健康福祉部長、木村社会福祉課長、金田課長補佐、奥村主査、館野主事、
阿久津主事、障がい児者相談支援センター鈴木氏、小川氏、鈴木鮎美氏、栗
谷氏
公開・非公開の別（ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 ）
傍聴者 なし

1. 開会

（事務局） 定刻になりました。ただ今より「第4回 下野市障がい者福祉計画策定委員会」を開会いたします。本日は、3番武田委員、4番安田委員、6番小島委員、7番大久保委員、8番岡委員、15番本田委員が欠席でございます。下野市障がい者福祉計画策定委員会設置要綱第6条第2項の規定によりまして、委員の過半数を超えておりますので会議が成立することをご報告いたします。それでは、議事に入る前に青山委員長よりごあいさつをお願いします。

2. 委員長挨拶

（青山委員長） みなさん、こんにちは。本日は第4回ということで、この策定委員会も最後になります。皆さまからご意見・ご質問をいただいて、事務局の皆さまにも奮闘していただいて、なんとかここまでできました。最後の機会になりますので、後程皆さまから一言ずつコメントをいただきたいと思います。どうぞ最後までよろしく願いいたします。

（事務局） ありがとうございました。

3. 議題

- (事務局) 要綱第7条第4項の規定により、今後の進行につきましては青山委員長にお願いいたしますのでよろしくお願いいたします。
- (青山委員長) 次第に従いまして、議事を進めさせていただきたいと思います。(1) パブリックコメントの結果について(資料1)を事務局より説明をお願いいたします。
- (事務局) 資料1に基づき説明。募集期間は令和3年2月8日(月)～令和3年2月25日(木)に市のホームページ・社会福祉課(下野市役所1階)・市民課石橋窓口(石橋公民館1階)・市民課南河内窓口(南河内公民館2階)で公開しました。パブリックコメントの実施結果は閲覧者数0名、ご意見の応募者数及び件数0件であったことを報告いたします。
- (青山委員長) ありがとうございます。パブリックコメントについては0件との報告でした。また、第3回の委員会でいただいたご質問をこの場で回答いただけるということで、事務局よりお願いいたします。
- (事務局) 前回の第3回策定委員会の中で、ご意見・ご質問をいただき、計画(案)に反映した点をご説明します。まず、62ページの(4)福祉施設から一般就労への移行等の目標値について数字が間違っていた箇所を訂正いたしました。続きまして、75ページの障がい児通所サービスの実績・見込量及び確保の方法の(1)児童発達支援について数字の訂正はしていませんが、ご指摘のあった部分について説明いたします。利用者数の見込みについて、少子化にある下野市においてこの数値は多いのではないかとのご意見がありました。県にも確認したところ、どの市町村に調査を行っても利用者はまだ右肩上がりであり、県としてはまだ高止まりの位置ではないと見込んでいるとのことです。セルフプランではなく、計画相談を利用する方がほとんどになり、適正なサービス利用ができていると判断し、今後も利用者は増加し続けるのではないかとのお話がありました。そのため、下野市においても県の考えに沿って、この見込み量で計画に載せていきたいと思います。また、まだこの計画(案)には反映されていませんが、市内のサービス提供事業者の記載がないとの意見もありましたので、資料編の中に記載したいと考えています。ご意見を反映した部分につきましては以上になります。
- (青山委員長) ありがとうございます。今の説明の中でご質問等ある方はいらっしゃるでしょうか。それでは、せっかくの機会ですので、皆さまからご意見をいただきたいと思います。生澤委員からお願いいたします。
- (生澤委員) 今回この策定委員会に参加させていただいた中で、私自身勉強不足なところもあり、様々なことを勉強させていただきました。その中で、下野市社

会福祉協議会とすればまだまだ障がいの部分で足りない部分があるな、と感じました。こちらの計画を確認しながら、より良い障がい分野の事業を進めていけたらと思っています。本当にいろいろなご意見があり勉強になりました。ありがとうございました。

(鱒淵委員) 初期の段階から策定委員会に参加させていただいて、回を重ねるごとに下野市で不足している福祉サービスや、住民が希望しているサービスを一つ一つ付け加えていって、良いものになっていると実感しています。現場の生の声をこういった場で意見交換して、計画に則って実現していく過程を一緒に関わらせていただいて、とても嬉しく思っています。今回気になった点としては、下野市障がい児者相談支援センターができて、センターを作る過程も見させていただきましたが、計画の中のアンケート調査では、まだなかなか利用されない、相談されていないとパーセンテージとして出てきてしまっています。おそらくアンケートに答えている方は、基幹型のセンターに相談しているというよりは市役所に相談しているという感覚があり、利用度の回答が低くなっているのかなと思います。あまり活用されていないのではと読み取られてしまうのが、実際現場で頑張っている人はこんなにも努力しているのに少し残念かなと思いました。事務局の皆さんも短期間で頑張ってください、感謝しています。ありがとうございました。

(臼井委員) 私も初期の段階から事務局として、また委員としても参加させていただきましたが、やはり回を追うごとに充実したものになってきたのかなという印象です。また、市内に障がい者に対するサービス事業所を資料編として付けていただけるということで、当初はこんなサービスがあったらいいなとワーキンググループ等で話し合いをしてきた経緯があります。また、私の場合は児の計画を主に担当しているのですが、このところ本当に子どもに関しては事業所が増えていると実感しています。その分親御さんへは、サービスの内容を気にしながら紹介したり、障がい児であっても通常学級のお子さんと同じところで生活をしていくような地域支援のサービスが中心に支援したりしていけたらと思っています。資料編においてはいろんな事業所が載ってくると思うので、それをみんなが使える、知っている情報として広がっていけたら良いなと思っています。ありがとうございました。

(上野委員) 国分寺特別支援学校で進路指導を担当しております、上野と申します。本校の場合は生徒やご家族を支援していく内容も多岐にわたっているもので、この策定委員会に参加したことで、こんなにも多くの方が障害のある方、ご家族の方のために奮闘してくださっているということを感じまし

た。また、学校の外にもサポートが必要な方がたくさんいると改めて実感したとともに、たくさんのサービスがあることを学校の方で色々と情報提供をできたらと考えています。色々とありがとうございました。

(水本委員) 下野市教育委員会学校教育課の水本と申します。本年度初めてこの委員会に参加させていただきまして、下野市の障がい者福祉計画について知ることができ、大変勉強になりました。私は小学生・中学生で障がいを持つ子どもの支援について担当させていただいており、本年度学校教育課の方では特別支援教育推進計画を策定いたします。この推進計画を作っていく中で、社会福祉課が担当されている児童発達支援やこども発達支援センター、放課後等デイサービスなど、様々なサービスや相談支援体制などが子どもたちを支えているということで、需要が増えていきますし、なくてはならないものだとこの1年で強く感じました。今後も勉強させていただき、子どもの特別支援教育において学校教育課でも推進していけたらと思います。今後ともよろしく願いいたします。

(山家委員) こどもの広場いしばし、山家と申します。うちでは児童館と学童ということで、参加させていただきましたが、素晴らしい計画ができたなと思うと同時に、今は学童も利用者が多くて支援員が足りず、なかなかお手伝いができずに心苦しい面があります。ただ今、児童館の方には放課後デイサービスの方たちが遊びに来てくれて、交流の機会が増えました。コロナの影響で利用は制限されますが、せつかくの交流の場なので、これからも続けていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(粥見委員) いいこみ代表の粥見です。事務局の方々、計画策定にあたりコロナ禍で大変だったかと思いますが、このようにまとめてくださりありがとうございました。私の方ではこのパブリックコメントの期間にいいこみとわかばクラブのグループラインで計画について供覧し、意見交換を行いました。いいこみは基本的には療育手帳を持っている方が参加しているので、サービスについては既にわかっている、困った時には市に頼れるご家族が多い印象でした。また、わかばクラブは、児童発達支援に通っているけど療育手帳を持っていない比較的軽度の方が中心ですが、特に計画のアンケート調査の部分を目撃して、同じような思いを持ち、所謂グレーゾーンにいる子は将来をとて不安に思っている方が多い印象でした。今は放課後サービスを利用されているお母さん方もものすごく勉強されていて、自分の子どもに合う事業所をとことん探して通っている人も増えてきました。ものすごく情報を集めてきていますので、市の方でもそれに答えるのは大変だろうと思うくらいよく勉強されている方が増えている印象です。

(前野委員) 精神障がい者家族会の前野と申します。精神障がいの場合 P13 に手帳の

保有者数、P16には自立支援医療の利用者数が記載されています。自立支援医療の利用者の方が倍近い数ですが、その理由として精神障がいの場合、知的や身体に比べて手帳を持つメリットが少ないからだと考えます。自立支援医療は精神科の利用だけですが、年齢を重ねると、他の診療科の受診も増え、お金がなくて困るという意見があります。精神保健福祉手帳の所有者にも重度心身障害者医療費助成制度が使えるようにと県の議会に働きかけましたが、コロナの影響もあってか実施には至っていないようです。加えて、公共交通機関の割引もありません。手帳も持つメリットを少しでも増やして手帳保有の機会が広がっていくように願っております。また、県の資料で目にしたのですが、障がい者差別解消法を県で作っており、他県では市町村単位でも作っているところが多いようですが、栃木県では25市町村の中で栃木市だけのようです。下野市でも栃木市や他県を参考にして障がい者差別解消法を作ってくださいようお願いしたいです。

(朝川委員) 高齢福祉課の朝川と申します。計画のP50で高齢福祉課との連携強化ということで、新しく記載して下さってありがとうございます。これから障がいのある方が高齢になる中で、障がいのサービスから介護系のサービスに移行していく方がどんどん増えていくだろうということと、現場の実感としては、8050問題が一般的に言われていますが、そこに孫世代の20も増えてきているなどと思います。これから高齢部門も地域包括支援センターと障がい児者相談支援センターと連携を強化していく重要性を痛感しています。先日お互いで話し合いを行い、令和3年度は定例的に打ち合わせ会を開いて情報共有していくことになりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(片根委員) 県南健康福祉センターの片根と申します。1年間お世話になりました。策定委員会に参加させていただいて、県南健康福祉センター小山管内は2市2町ありますが策定のプロセスは市町それぞれだなという印象を抱きました。やはりこういった計画は作らなければならない義務感が強くて、作ることが目的になっているところも正直あるのかなと思います。ただ、そこにどんな血を通わせるかというのはどんな委員さんが積極的に参加しているかが決め手になると実感した委員会でした。計画にある基本理念や基本目標というのはすごく大切に、基本理念にどう取り組んでいくかが重要だと実感しました。個人的には、せっかくの良い計画ですので、市民の皆さんがとつきやすいというか、パブリックコメントなどでも目にする方がもう少し増えても良かったと思いました。以上です、ありがとうございます。

(古口委員) この一年間ありがとうございました。私は親として、この計画を利用させ

ていただいている側の立場でこの会に参加させていただいています。いろいろ勉強にもなりましたし、こういうサービスがあって、皆さんはこういう意見があるのだなど、視野を広げる良い機会でした。息子は自閉症の為変化にとっても弱いのですが、特に今年はコロナ禍の影響で、マスクをしなければならないなど生活環境の急な変化を強いられる1年でした。震災からも10年になりますし、いろいろな計画のなかで、そういった突然の出来事や緊急時に子どもたちが安心して過ごせる空間や場があるといいなど痛感する1年でした。計画の中では考えられていますが、それが実際必要になった時に素早く利用できるようにシステムが充実すれば良いなと思いました。この計画がスムーズに運営されるよう願っています。

(白石委員) 私は障がい福祉に仕事で携わって1年半位しか経っていない為、当初はこの委員会ではいったいどんなことをやるのだろうという思いでこの委員会に参加させていただきました。正直、初めのうちは何を言っているのかわからない状況でした。その後この委員会に参加する中で、下野市ではこういった計画を作って障がいのある方にいろいろなことをやっているのだなとわかりました。まだ私は携わって日が浅いのですが、この委員会で勉強させていただいたことを活かしながら活動していきたいと思っています。

(大嶋委員) 協働支援コーディネーターの大嶋と申します。県の委託を受けまして、こういった会議のバックアップということで参加させていただいています。私は下野市以外に県南・両毛圏域を担当しています。下野市さんは県内の市町村で一番早く始まったかなという印象を持っているのと、委員会の回数も多いので、事務局の方も大変だったのではないかと思います。早めに意見を取りまとめるなど体制が充実している市だなと感じました。P61～P64に記載がありますが、今年度の主に国としての方向性が定められてからの市の計画の話し合いになると思います。この国の方向性を見ると、地域でどうやって支えて連携していくかということと、障がい児や発達支援といった言葉が改めて増えている印象です。やはり早期に適切な療育を行う体制をとるという方向性が強くでているようです。特に発達障害の新規項目で、保護者への支援などが書いてありますが、今までも市でやってきて積み上げてきたものがあると思いますが、その役割をこの計画で整理できたのではないかと思います。今後、計画が出来上がってからはPDCAサイクルで年に1回位は評価していくことになりますが、この評価が案外難しく、どの市町でも頭を抱えているようです。作って終わりではなく、そういったサイクルも継続してできたらと思います。

(梁島委員) 県南圏域障害者就業・生活支援センターめーぷるの梁島と申します。年間で100件位働きたいということで新規のケースが上がってきますが、今

年はコロナの影響か70件位の相談がありました。その中で実際に働ける方は3割くらいです。では、その他の7割の方をどうするかというと、就労移行支援事業所での2年間の就労プログラムが要になると思います。下野市さんに限らず県南圏域としましては、就労移行支援事業所がかなり少なくなっています。その為、働きたいという方がまずA型事業所に流れる傾向があるようです。A型でしっかりとした基礎を積み重ねることなく就職をしてしまう方も多いようです。県南圏域としての課題としては、そういった方の就労移行としての受け皿をどう考えていくかということと、精神障がいや知的障がいを受け入れる企業さんが少ないということです。身体障がいの方が優先されてしまい、ハローワークの実績として、雇用率は右肩上がりかもしれませんが、実際の障がいへの理解・啓発といった面はこれからもどんどん進めなくてはならないと思います。他の市町と比べると、下野市さんの企業に伺う機会が少ないように思いますので、特に工業団地もあるので、もう少し採用してくださる企業さんが増えても良いのかなと思います。この1年間委員会に参加させていただいていきまして、就労に関してはご本人さんたちの永遠の課題だと思いますので、私の方でも適宜めーぷるで相談に乗りながら、働く環境を支えていければと思います。

(青山委員長) ありがとうございます。こうして皆さんからご意見・ご感想をいただき、さらにとても勉強になりました。今この場で考えたことがいくつかありまして、1つはこのようにまとめた時の統計の示し方です。それこそ数字を表にまとめたり、グラフにまとめたり、見た時にわかりやすいかも関係します。また、性別や年齢や職業や障がい種別やどういったサービスを利用しているのかで、いろいろな観点ができてきて、分析していくと新たな発見がある場合もあります。そして2つ目は情報の届け方です。本当に必要としている方に情報が届いているのだろうかと考えます。この分野に限らず課題になるとは思いますが、情報収集に長けている方も中にはいますが、本当に届けたい方に情報が届けられない場合もあり、それをどうやって・誰が届けていくかの仕組み作りが重要になってくると思います。これが皆さんのコメントを聞く中で気がついた点になります。改めてありがとうございます。それでは、議題としては以上になりますので、事務局よりお願いいたします。

(事務局) 青山委員長、ありがとうございます。最後に4. その他となりますが、委員の皆様から何かございますか。
それでは事務局より、今後の流れについて説明いたします。この後、計画書を印刷し委員の皆様へ配付する予定です。また、関係機関等にも配付す

る予定です。それでは最後に、市を代表して健康福祉部手塚部長よりあいさつをお願いいたします。

(手塚部長) 皆さま本当にありがとうございました。この計画につきましては、先日の議会でも説明させていただきました。その中で市民の代表である議員の方々も大変素晴らしいものができたと言っていただきました。ただ、これを今後いかに反映していくかが我々の使命であり、皆さまには再度お力添えいただくこともあるかと思えます。委員の皆さまには、5月の第1回から本日の4回まで、長期にわたり本計画の策定のため、貴重なご意見を、熱心にご協議いただきありがとうございました。本日、皆さまにご承認をいただき、令和3年度からの第6期障がい者福祉計画を無事、策定することができました。策定にあたり、障がい者を取り巻く社会情勢の変化やアンケート内容などから、親の高齢化に伴い、親亡き後に備え、高齢福祉との連携強化を新たに掲げ、自立した生活支援のため、相談支援体制の充実を図るよう基本目標を見直し、新たに取り組む事業などを盛り込んだところです。4月から、本計画に基づき様々な事業を実施していくこととなりますが、引き続き皆さまのご支援ご協力をお願い申し上げ、お礼の言葉といたします。ありがとうございました。

(事務局) ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、本日の委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

議事録署名人 _____ 印

議事録署名人 _____ 印